

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【地域創造推進実践校用】

学校番号	35
学校名	富山県立南砺福野高等学校

重点課題	B【1】地域企業と連携した課題発見・解決能力および主体的に取り組む姿勢の育成 【2】地域社会と連携したキャリア教育の充実および(グローバルな視野を備えた)地域人材の育成	
課題設定の趣旨	<p>【1】本校では教育目標の中に「地域の歴史や文化を尊重し継承する態度を身につける」「広い視野と持ち、多様な人々と協調する態度を身につける」を掲げており、地域の課題発見・課題解決活動を通じて、主体的に学ぶ人材の育成を図る必要がある。そのための方策として、普通科・国際科において、次の2点が求められている。</p> <p>1 「総合的な探究の時間」を柱としたカリキュラム・マネジメントの構築を図る。 2 教科横断的な充実した探究活動の仕掛けづくりを図る。</p> <p>〔普通科・国際科〕 普通科・国際科では、探究活動に「学び合い活動」を取り入れ、思考力や判断力、表現力を高め、主体的に学び続ける心豊かな創造者を育成することを目指している。そのため、地域や大学との連携・交流を通し、生徒が興味・関心がある探究活動を充実させることが求められている。</p> <p>【2】本校では、中長期ビジョンの1つに「地域貢献できる人材の育成」を掲げており、実現のためには、地域と連携した教育活動の推進が不可欠である。そのため、地域と連携したキャリア教育の在り方を研究し、国際的な視野を持った地域で活躍できる人材の育成を考えている。</p> <p>〔国際科〕 国際科では、国際社会に対応できるコミュニケーション能力の習得を目指し、確かな語学力とグローバルな視野を備え、世界や地域で活躍できる人材の育成を学科理念として掲げている。そのため、生徒が世界の状況を理解し、国際的な視野を養うとともに、これからの時代に求められる資質について考え、自己の可能性を深く考察することが求められる。こうした学びを実現するために、自治体や企業、大学等と連携し、教育活動の充実を図ることが重要である。</p> <p>〔農業環境科〕 農業環境科では、農業の社会的役割、経済的機能を理解させ、将来、地域農業の発展・向上に寄与できる人材として必要な知識や技術を習得させることを目指している。課題として、農業体験の少ない生徒が多く、基礎・基本の確実な定着と体験的な学習を重視し、反復学習を通してより専門知識の理解を深め、技術の確実な定着を図る必要がある。そのため方策として、次の2点が求められている。</p> <p>1 専門科目の充実と時代に沿った経営知識や技術を体系的に習得する。 2 地域や企業と連携した教育活動によるキャリア教育の充実を図る。</p>	
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項	<p>〔普通科・国際科〕 中長期ビジョンの実現に向け、①探究活動の体系化と教科横断的学習の推進、②地域企業・大学・行政との連携強化および協力体制の拡充、③教員の指導力向上と評価体制の整備を重点事項とする。これにより、生徒の主体的な学びと地域社会に貢献できる人材育成を継続的に推進する。</p> <p>〔国際科〕 自治体や企業、大学等と連携し、講演会や協働活動を通じて国際的な視野を養い、地域や社会の課題を多角的に探究することで、主体的に考え行動する力や他者と協働して課題解決に取り組む力を育成する。そのため、世界の様々な地域で活躍している方々の講演を聴いたり、交流を継続することが重要である。それによって国際的な視点から物事を考えて様々な問題に対処していく力をつけていくべきである。</p> <p>〔農業環境科〕 地域の企業と連携し、地元の食品製造を体系的に学ぶ。また、富山県産の原材料を使用し、生産から加工・流通までの一貫した学習活動を行い、付加価値の付与や6次産業化の知識・技術の習得を図る。さらに、年間を通して味噌やパン、ジャムの製造を行うとともに地域行事での販売や保護者会時の校内販売を行い、地域と交流しながら、地域貢献活動に主体的に取り組む姿勢や地域課題を発見し、他者と協働して解決に取り組む姿勢を育成する。</p>	
実施内容 (具体的に記入する)	<p>〔普通科・国際科〕 探究活動の意義に関する富山大学林誠一氏の講演(7月4日)を皮切りに、企業課題の説明(7月17日)、南砺市行政課題の説明(7月24日)、南砺市バスツアーによるフィールドワーク(8月19日)を行った。その後、11月から12月にかけて2~3回の探究助言の機会を設け、12月12日に中間発表、3月12日に最終発表を実施した。</p> <p>〔国際科〕 グローバル講演会として高柳妙子氏(東京女子大学 現代教養学部 心理・コミュニケーション学科特任准教授)による講演 演題:「富山から東京経由でアフリカへ:地域に根差した子どものWell-being 向上を教育の視点から考える」 講演後には、生徒代表8名と高柳先生との座談会を行い、講演に関する内容の他にもざっくばらんに質疑応答を行った。</p> <p>〔農業環境科〕 ・5月~11月…パンの製造実習 ・6月…天地返し実習、切り返し実習 ・8月…食品衛生責任者講習会受講 ・9月~11月…ジャムの製造実習、商品化 ・9月~10月…味噌・ジャムのパッケージ ・12月…保護者会および福野歳の大会での販売実習 ・12月中旬~3月下旬[味噌の仕込み 計450kgほどの仕込み] 外部講師の構さん、ホワイト食品株式会社、と連携しながら、商品化した。 また、ジャムに関しても商品化し、地元行事および南砺市と連携し東京都新宿御苑で開催されたGTFグリーンチャレンジにて販売を行った。</p>	
取組の成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<p>〔普通科・国際科〕 第1学年の探究活動では、南砺市内5社および南砺市から提示された課題に対し、高校生の視点で課題解決に取り組んだ。地域の企業や行政と連携しながら探究を進めることで、生徒は課題を自分事として捉える姿勢を身につけるとともに、郷土への理解を深め、主体的に学ぶ態度や将来の進路を見据えたキャリア意識の醸成につなげることができた。</p> <p>〔国際科〕 本事業において、国際舞台で活躍されている高柳氏の足跡を辿ることで、生徒が「地域と世界」の繋がりを自分事として捉える貴重な機会となった。講演や座談会を通じ、教育の視点からアフリカの子どものWell-beingを考える中で、異文化理解の本質が単なる知識の習得ではなく、現地の文脈に寄り添う姿勢にあることを学んだ。世界を身近に感じ、多角的な視点で社会課題に向き合おうとする生徒の主体的な変容が見られたことは、大きな成果である。</p> <p>〔農業環境科〕 今年度は、本校で栽培したブランド米の「富富富」を使用し、富山県産にこだわった味噌製造を行った。製造から販売を通した6次産業化を体系的に学ぶことで生徒の学習意欲の向上に繋がるとともに、地元企業への就農意欲を育むことができた。今回の取り組みで、生徒たちはとても意欲的に味噌づくりに取り組む姿が見受けられた。今後も味噌やパンは毎年改良を重ね、南砺福野高校のブランド品として確立させることを目標とし、パッケージに関しても生徒の意見を取り入れながら毎年検討を重ねていくことで課題発見・解決能力を育てていくことを目指したい。</p>	
対象者(学年・人数など)	〔普通科・国際科〕1学年170名 〔国際科〕1、2、3学年86名 〔農業環境科〕2、3学年 野菜・草花類型45名	
実施実績	4月	
	5月	〔農業環境科〕パン製造実習
	6月	〔農業環境科〕味噌の天地返し、切り返し実習、パン製造実習
	7月	〔普通科・国際科〕事前学習 大学教授による講演、企業行政の概要及び課題説明／〔国際科〕グローバル講演会／〔農業環境科〕パン製造実習、富山県日本学校農業クラブプロジェクト発表会参加(最優秀賞・県代表)
	8月	〔普通科・国際科〕南砺市バスツアー／〔農業環境科〕日本学校農業クラブ北信越ブロック大会プロジェクト発表会参加(優秀賞)、食品衛生責任者講習会受講
	9月	〔農業環境科〕パン製造実習、ジャム製造実習、パッケージ講習会
	10月	〔農業環境科〕パン製造、味噌の手入れ実習
	11月	〔普通科・国際科〕探究活動への指導2h〔農業環境科〕ジャム製造実習、販売実習
	12月	〔普通科・国際科〕探究活動中間報告への指導2h〔農業環境科〕味噌の商品開発および仕込み実習、販売実習
	1月	〔農業環境科〕味噌の仕込み実習
2月	〔農業環境科〕味噌の仕込み実習	
3月	〔普通科・国際科〕最終報告への指導3h	